

## 呼吸器内科

■診療科長 松元 信弘

■研修実施担当者 飯干 宏俊

### 教育施設として認定を受けている学会

日本内科学会認定制度教育病院、日本呼吸器学会認定教育施設、日本呼吸器内視鏡学会認定教育病院

### 診療科の概要

呼吸器内科では、一般的内科としての呼吸器疾患から診断未確定の呼吸器疾患まで、また、特殊検査や治療が必要な症例等を多数診療しています。呼吸器内科は、内科救急医療や地域医療、緩

和ケアまで、幅広く習得できる分野です。それらの経験と知識を身につけ、専門医資格を持つ Generalist の育成を目指します。

### 研修症例の特徴

呼吸器疾患は、どの分野でも関わりを持つ common disease です。肺気腫や気管支喘息などの慢性疾患や、急性肺炎などの呼吸不全の診断と治療は、他の分野でも役に立つと考えられます。専門的には、肺癌や間質性肺炎の症例を習得できま

す。特に間質性肺炎の存在は、手術の際に重要な危険因子です。

初期臨床研修の到達目標である呼吸器疾患の症状や病態、手技を研修中に経験できます。

### 研修目標

#### 【一般目標 (GIO)】

患者、医師の良好な人間関係を確立する。チーム医療の役割を担う医師を目指す。臨床上の疑問点を解決するための情報を収集し、治療の適応を判断する (Evidence Based Medicine)。医師として、安全な医療を遂行する。また、医療の持つ社会的側面の重要性を理解する (保険医療、倫理)。要するに、診療グループの担当医として、臨床医として必要な基本的知識と手技、患者の心理・社会的問題を理解する姿勢を身につけることが目標。

#### 【個別行動目標 (SB0s)】

- 病歴や身体診察から、病因診断を呈示できる。  
静脈採血、血管確保、動脈採血などの基本手技が施行できる。
- レントゲンやCT、MRIなどの画像所見から、鑑別診断を考える。
- 気管支鏡検査や胸水検査などから得た検体から、診断を検討する。
- 疾患について基本的知識を習得し、治療方針について検討できる。
- プロブレムリストを明確にした診療録を、正確に遅滞なく記載できる。
- 担当した症例をまとめ、カンファレンスや学会でプレゼンテーションできる。
- 文献検索を行い、科学的根拠に基づいた総合判断ができる。
- 患者や家族の心理を理解し、患者の社会的問題を解決できる。
- コメディカルと協調し、適切なタイミングで医療スタッフに指示することができる。

## 研修方略

### 【指導医および指導体制】

研修医1人に対し3~4人の入院患者を受持研修医として担当します。主治医である専攻医と一緒に症例を診療し、専門医による指導を直接受けることができます。また、後期研修制度に対応した症例配分を個別に検討致します。週1回のカン

ファレンスを通して、担当症例のより深い理解、問題点のリスト化、EBMに基づいた治療方針決定、プレゼンテーションスキルを学びます。

### 【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

月曜日に論文抄読会が行われ、論文の読み方や、論文作成時のポイントなどを上級医が指導します。また、呼吸器外科、病理学講座との合同症例カンファレンスも定期的に行われ、総合的な診療

の理解を学ぶことができます。

学会やCPC、研究会での症例発表を経験することで、診療の質やプレゼンテーションスキルを向上することができます。

### 【基本的臨床検査、手技】

採血などの一般内科の手技はもちろん、血ガス分析や気管支内視鏡検査、胸水穿刺、ドレーン留置、気動確保、呼吸器管理等の実技を指導医のもと研修できます。

### 【週間スケジュール】

	午前	午後
月曜日	外来、気管支内視鏡検査	病棟診療、抄読会
火曜日	総回診	カンファレンス
水曜日	ベッドサイド回診、聴診実習	気管支内視鏡検査、画像カンファレンス
木曜日	病棟診療	病棟診療
金曜日	外来	病棟診療、BFカンファレンス

## 研修評価

オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）が行われます。

## 指導医・先輩医師からのメッセージ

私たち呼吸器内科の仕事は、十分な病歴聴取と身体診察、聴診から診断を模索するという医師にとって今となっては基本的、古典的なプロセスから始まります。これは二十年経っても変わりません。そして血液、喀痰検査、画像検査、内視鏡検査や胸水穿刺等の専門的検査で確定診断を導き適切な治療を施すという、ゴールが待っています。初期研修医の先生たちは、これらのプロセスを盗み学んでほしいと思います。また、後期研修にて呼吸器専門医を将来考えている医師にとっても十分満足できるものと思います。さらには、一般内科医を目指す若い医師にとっても呼吸器内科の研修が将来役に立つのではないのでしょうか。胸写やCTが苦手な人でも、症例を重ねると見えてきますよ（問診と聴診力、画像読影力が習得できます）。

（飯干 宏俊）